

復興支援の活動報告 気仙沼で大学教授ら

気仙沼市で東日本大震災の復興支援活動に関わる研究者らでつくる「気仙沼大学ネットワーク」の活動報告会が19日、市魚市場前の海鮮市場「海の市」であった。4大学の研究者6人と地元の街づくり団体が、復興に懸ける思いとともに活動の経過を振り返った。

ネットワークは2012年2月に発足。全国46の大学や団体が構成する。報告会は今年が3回目で、研究者らは持ち時間15分で支援活動の内容や今後の課題などを報告した。

杉ノ下地区の防災集団移転事業を支援した首都大学東京都市環境学部の市古太郎教授は、住民と一緒に理想の宅地模型を作ったり、元の集落に近い移転先を探したりした経緯を説明。市古教授は「住民の小さなつばやきをすくい上げること

が大事」と強調した。報告会には地元の街づくり団体の関係者ら約30人が参加。他地域での取り組みを熱心に聞き入った。



復興への取り組みを報告する研究者ら